

熊本高等専門学校 令和5年度計画の点検結果

| 番号 | 熊本高専 令和5年度計画 | 令和5年度計画実績(※年度末の状況) |
|----|---|---|
| 1 | <p>1.1 教育に関する事項 (1) 入学者の確保 ①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> 募集パンフレットや広報誌、公式Webサイトなど確認して、本校の様子と本校6学科の特色が中学生及びその保護者、中学校教員に伝わるように工夫する。 公式Webサイトに、学校の紹介や各種イベントの案内、活躍した学生の紹介等、公式Webサイトの情報の更新と充実を図る。2020年に公開したWebオープンキャンパスを積極的に活用し、本校の魅力を発信する。 本校で中学生及びその保護者等を対象に実施しているオープンキャンパスや入試説明会、塾講師や中学校教諭を対象にした学校説明会では、説明会の対象者を意識した効果的な説明を行う。 中学校が主催する上級学校説明会の参加依頼については原則としてすべて参加することとし、中学生、保護者、中学校教諭に対して、熊本高専の魅力を伝えられるよう、説明内容の精査と資料の改善を行う。 中学生及びその保護者等を対象に実施されている合同説明会や中学校訪問については、費用対効果を鑑みて、効果的・効率的に志願者増に向けた取り組みができるよう実施内容を点検し、改善の検討を行う。 | <p>1.1 教育に関する事項 (1) 入学者の確保 ①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> 募集パンフレット「テクノモーション」を発行した。中学生や保護者に高専の特色が伝わるように記載内容等の精査を行った。テクノモーションの公式Webサイトへの公開は、閲覧者の利便性を考慮し、昨年度につづき電子ブック形式とした。また、公式Webサイトに掲載の情報を更新した。 各種イベントについては、熊本県および近隣の中学校あてに案内を送付するとともに、公式Webサイトにて周知を行った。各種イベントの参加申込にWEB出願システムを利用したことで、中学生が本校Webサイトを訪問する機会の増加につながった。 各種説明会における資料については、本校の特色ある取り組みについての項目を追加し、本校の強みをアピールする資料作りをおこなった。また、入学者選抜に関する説明については、対象者を意識した資料の作成、説明を行った。 中学校が主催する上級学校説明会については、参加依頼があった学校についてはすべて参加した。5月から10月にかけて、熊本キャンパスでは、17校の中学校からの依頼による説明会、2件の進路指導者向けの合同説明会、八代キャンパスでは、25校の中学校からの依頼による説明会に参加した。 KOSEN FES2023、KOSEN FAIR 2023において、募集要項、テクノモーション、学校紹介PV等の提供を行った。 |
| 2 | <p>①-2</p> <p>中学生及びその保護者等を対象に実施しているオープンキャンパスや入試説明会、塾講師や中学校教諭を対象にした学校説明会を開催し、きめ細かなPR活動を継続する。</p> <p>中学校主催の上級学校説明会に参加し、中学生及びその保護者に高専の魅力を伝える。オープンキャンパスでは、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行による感染防止対策の変化に対応し、学生会と連携して学生による個別相談や保護者後援会の協力を得て保護者の相談ブース設置を行い、中学生及びその保護者への働き掛けを強化して熊本高専の特性や魅力を発信する。</p> <p>また、寮務委員会や寮生会と連携した寮見学など、寮に関する情報提供も行っていく。</p> <p>中学校PTA単位での学校見学会については今年度も継続して実施する。新型コロナウイルス感染症を考慮して実施したオンライン進学相談会についても、引き続き実施し、スケジュールが合わなかったり、遠方のためオープンキャンパスに参加できなかった中学生に対する学生募集活動を強化する。</p> | <p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> 熊本キャンパスでは8月6日、八代キャンパスでは8月5日に実施した。本年度も1回の参加者に上限を設けるなど制限された状態ではあったが、両キャンパスとも学生も参加し、コロナ禍以前と同様の形式で実施できたことにより、中学生に対してPRできたと考える。熊本キャンパスでは寮見学、八代キャンパスでは寮改修中のため寮務委員会による説明会を実施した。また両キャンパスにおいて後援会や学生会の協力を受け、個別相談も実施した。熊本キャンパスでは中学生364名、保護者322名、八代キャンパスでは中学生239名、保護者202名と昨年度よりも参加者数が増加した。 中学校教諭や塾講師を対象にした学校説明会を10月10日に開催し、熊本キャンパスでは17校、13塾、八代キャンパスでは8校、7塾の参加があった。 中学生対象入試説明会は、電波祭、高専祭にあわせ、熊本キャンパスでは10月28日、八代キャンパスでは10月29日に実施した。熊本キャンパスでは中学生119名、保護者112名、八代キャンパスでは、中学生80名、保護者77名の対応を行った。 中学生、保護者の相談に応えるため、「受験生のためのオンライン進学相談会2023」を9月23日に実施し、28組の参加があった。相談会には、本校学生も参加し、中学生と学生が直接対話することで本校の魅力をアピールできた。オンラインによる開催のため、遠方から本校を希望する受験生への対応ができた。 中学校PTA単位での学校見学会として、5月から10月にかけて熊本キャンパスでは7件(46人)、八代キャンパスでは3件(13人)の申し込みがあった。 熊本キャンパスでは、高専塾ナレッジスターによる模擬試験(11月3日開催)に試験会場を提供し、受験者19名(申込者23名)に募集パンフレット「テクノモーション」を配布した。 |
| 3 | <p>②-1</p> <p>女子中学生の志願者増に向けた取り組みとして、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、オープンキャンパスや学校説明会等において、女子学生による相談コーナーや説明コーナーを設ける。</p> <p>また、女子中学生の志願につながるよう、従来の募集パンフレットや各種説明会資料、Webサイトの他、他の方法についても、本校の優秀な女子学生の存在と能力をアピールするため、内容と情報発信の方法について検討し、実施する。</p> | <p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスの個別相談会では、熊本大学のJST事業と連携し、女子生徒のための相談コーナーを設置した。 オンライン相談会において、女子生徒のための相談室を設け、両キャンパスの女子学生と女性教員が相談にあたった。 募集パンフレットにおいては、女子の在学、卒業生を積極的に起用した。 |
| 4 | <p>②-2</p> <p>引き続き、本校ホームページ(英語版)の充実を図り、可能な範囲での海外協定校への訪問、オンライン等による交流を通じて高専教育について特性や魅力を伝える。</p> | <p>②-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページ(英語版)の更新を行った。 シンガポール(Temasek Poly, Singapore Poly)、ベトナム(ハノイ大学)、タイ(PCSHS Loei)、台湾(静宜大学)、香港(VTC)等の協定校への訪問を実施し、本校の教育について情報を共有し交流計画等について情報交換を行った。 短期プロジェクト留学生(令和5年度は15名受け入れ)や受け入れ学生交流(8月タイPCSHS:6名、香港VTC:19名、9月シンガポール Temasek Polytechnic:30名、3月香港IVE:20名、計75名受け入れ)を通じて本校の魅力を伝えている。 マレーシアADTEC教員研修(9月実施)では6名の教員を迎え、技術研修の提供や高専教育についての特徴や魅力を伝えた。 |
| 5 | <p>③</p> <p>本校の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った入学者を確保するため、本校のアドミッションポリシーを募集パンフレット、学生募集要項、公式Webサイトなどで分かりやすく公開するとともに、オープンキャンパスや学校説明会などでも中学生及び保護者、中学校教諭に周知する。本校のアドミッションポリシーを反映した評価ができるよう、蓄積すべき入試等のデータ整理及び分析を実施する。</p> <p>Web出願について、昨年度に導入したWeb出願システムの運用における課題を整理し、対策を検討して改善を行う。また、学生募集要項、オープンキャンパス、入試説明会等で中学生、保護者および中学校に周知する。今年度は本科編入学試験においてもWeb出願を導入する。</p> | <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校のアドミッションポリシーは、本校公式Web、学生募集パンフレット、学生募集要項で公開するとともに、学校説明会等では必ず周知している。また、本校のアドミッションポリシーを反映した評価ができるよう、推薦選抜や編入学の面接における問題の見直しを進めている。 入学時アンケートにおいて、アドミッションポリシーに当てはまるかとの設問を設け、その結果をキャンパスの入学者選抜委員会に報告した。 編入学選抜検査におけるWeb出願を導入した。 受験生の利便性を考慮して、推薦選抜を不合格となった場合の受験会場を、推薦選抜の志望学科によらずに選択できるように変更した。 昨年度から導入したWeb出願においては、昨年度の実績を踏まえ、募集要項、Web出願フォームの改善、出願情報事前記入シートの導入などを行った。 令和4年度のデータを用いて、オープンキャンパスと入学者選抜の関係について分析を行った。 |
| 6 | <p>(2) 教育課程の編成等 ①-1</p> <p>教育組織の改編に合わせて学校運営組織として再編成した企画運営会議、企画調整会議を運用し、法人本部の国際交流センターや教育改革推進本部、情報戦略推進本部等との円滑な連携に取り組む。</p> | <p>(2) 教育課程の編成等 ①-1</p> <p>再編成した企画運営会議、企画調整会議を適切に運用し、法人本部の国際交流センターや教育改革推進本部等との連携を行った。特に教育改革推進本部とは、LMS拠点校の受諾や、本部の教務関連研修会の担当において密接に連携を取った。</p> |

| 番号 | 熊本高専 令和5年度計画 | 令和5年度計画実績(※年度末の状況) |
|------------|--|---|
| 7 | <p>①-2 ・令和5年度に入学した九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラム第1期生の学校生活、学業、インターンシップ、研究面でのフォローアップ、および次年度以降の入学に向けたPR活動、教員間の研究マッチングの推進を行う。</p> <p>・社会ニーズを踏まえた高度な人材育成に取り組むため、地元企業等との共同教育や共同研究活動を継続的に実施する。また、高専スタートアップ事業に関しての検討を開始する。</p> | <p>①-2 九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムにおいて、1年次は原則、高専側で研究・授業が実施される。前期は高専の指導教員と専攻部会が連携し、学校生活、学業、インターンシップ、研究面でのフォローアップを行った。次年度の入学生確保に向けたPR活動としては、5月27日(土)に実施された九大筑紫キャンパスに約40名の学生を引率し、大学での研究活動の魅力や学生に伝えている。本科4年生を対象とする夏季インターンシップも無事に終了した。教員間の研究マッチングの推進に向けては、九州大学総理工セミナーを学内教職員に周知した。交流の場となるSMDF2023半導体デバイスフォーラムは12月9日に開催された。</p> <p>TKL(東京エレクトロン九州)との「人材育成プログラム」により、令和5年5月13日(金)にキックオフミーティングを行った。毎週金曜日の午後、TKLに17名の学生(両キャンパスの専攻科1年および本科5年生)がインターンシップ活動を実施している。また、令和5年10月6日(金)にTKL-熊本高専人材育成プログラムの「前期学生成果発表会」を開催した。令和6年3月8日(金)には、後期学生成果発表会が実施された。地元企業との共同教育は順調に進められている。</p> |
| 8 (39) | <p>②-1 ・海外渡航の安全状況については引き続き注視しつつ、安全に海外留学や海外インターンシップができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、企業とアカデミックの両面からのインターンシップの準備を進めていく。</p> <p>・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。</p> | <p>②-1 ・海外協定校と連絡を取り合い、4年次の海外研修でのシンガポールやベトナム、香港等の協定校の相互訪問交流を開始しており、留学を含むディスカッションを進めた。</p> <p>・シンガポール(学科研修:2学科約70名、英語研修20名)、タイ(PCSHS10名、SUT2名)等、海外安全状況を確認し、約100名の海外派遣を実施した。</p> <p>・短期プロジェクト留学生(令和5年度は15名受け入れ)や受け入れ学生交流(8月タイPCSHS:6名、香港VTC:19名、9月シンガポールTemasek Polytechnic:30名、3月香港VTC:20名、計75名受け入れ)を実施し、それぞれの活動においては、本校の学生が同数以上参加してオンキャンパスでの国際体験を持った。</p> |
| 9 (40) | <p>②-2 学生の国際コミュニケーション力や海外へ飛び出すマインド育成のため、海外協定校との協働ワークショップなどの運営に学生も参画させていく。また、コロナ禍により中断していた海外研修についても、海外協定校と連絡を取り合い順次再開または再開準備を進めていく。</p> | <p>②-2 ・短期プロジェクト留学生(令和5年度は15名受け入れ)や受け入れ学生交流(8月タイPCSHS:6名、香港VTC:19名、9月シンガポールTemasek Polytechnic:30名、3月香港VTC:20名、計75名受け入れ)を実施し、それぞれの活動においては、本校の学生が同数以上参加して国際体験を持った。交流会運営に学生リーダーを置き国際マインドを育成している。</p> <p>・熊本キャンパスでは、海外研修を2学科が再開実施し、もう1学科も次年度再開に向けて教員による訪問を実施し準備を整えた。八代キャンパスでも、次年度に向けて準備を開始している。</p> |
| 10 | <p>③-1 高専体育大会およびロボコン、プロコン、デザコン、英語プレコン等に参加する本校の学生が大会で活躍できるように、予算面と環境面の両方において可能な限りの支援をおこなう。</p> | <p>③-1 (奨学)後援会からの援助を受けて、外部コーチや課外活動支援員の登用、各競技・管轄団体のチーム登録料の補助の他、ロボコン、プロコン、デザコン、英語プレコンにおける活動経費の補助や、学内予算において部活動の環境整備(プールにおける珪藻土や整備用ブラシの購入、体育館の床面整備等)を実施した。</p> |
| 11 | <p>③-2 学生にボランティアへの参加を積極的に呼びかけ、一定時間参加した学生にはボランティア単位を発行する等のインセンティブを与えることで、学生にボランティア活動への参加を推奨する。</p> | <p>③-2 自治体等と連携した高齢者向け事業である「スマートフォン使い方講座」(6/24他開催)や、「青少年のための科学の祭典」(8/19、20開催)、第36回やつしろ全国花火競技大会(10/21開催)等について周知し、意欲のある学生がボランティアをおこなった。</p> <p>また、本校主催、管轄の活動においても、「おもしろサイエンス・わくわく実験講座2023」(5/20開催)、九州沖縄地区ロボコン大会(10/15開催)等の運営補助のボランティアを募り、多くの学生がボランティア業務に従事した。</p> |
| 12 (41) | <p>③-3 本校の留学経験者の報告会及び留学説明会を開催し、留学の魅力や学生に伝える。その他、留学促進講演会として、外部講師及び卒業生による講演会を両キャンパスで実施する。留学に関する奨学金情報は、随時学生に提供していく。</p> | <p>③-3 ・留学経験者の報告会は随時行っており、次年度留学希望者向けの説明会を12月に実施した。</p> <p>・外部講師および卒業生による後援会を実施した(12月および1月)。</p> <p>・留学に関する奨学金情報は随時Teamsを通じて随時学生に提供し、外部資金による渡航やトピタ!留学JAPAN等への応募も支援した。</p> |
| 13 | <p>(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 専門科目担当教員の新規採用において、応募要件に博士(学位)を有する者を掲げることを原則とすることを人事委員会にて確認する。</p> | <p>(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 今年度は新規採用は予定されていないが、直近の専門科目担当教員の新規採用においては、応募要件に博士(学位)を有する者を掲げることを原則とすることを人事委員会にて確認している。</p> |
| 14 | <p>② クロスアポイントメント制度による教員採用の制度導入の可能性について検討し、引き続き、学内規則等の環境整備を推進する。</p> | <p>② 「九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラム」において、クロスアポイントメントに関わる教員採用手続きが必要となり、関連する環境整備を行った。</p> |
| 15 | <p>③ 変動労働勤務制度において、柔軟な勤務時間を選択できる環境にあるかを点検し、必要なシフト整備を検討する。また、同居支援プログラム、女性研究者支援プログラム等を教職員へ周知し、働きやすい環境整備について検討し、整備計画を策定する。</p> | <p>③ 変動労働勤務制度のもと、柔軟な勤務時間を選択できる環境にあるかを点検し、必要なシフト整備を継続的に検討している。また、同居支援プログラム、女性研究者支援プログラム等について教職員へ周知し、働きやすい環境整備を構築している。</p> |
| 16 | <p>④ 令和2年度、タイ高専への授業支援で沖縄高専の外国人教員の受持ち授業を熊本高専の教員で支援した実績を活かし、外国人教員を採用した学校への支援に対応する。</p> | <p>④ 令和2年度のタイ高専への授業支援に伴い、沖縄高専にて熊本高専の教員が支援した実績を今後も他高専への支援に繋げることを行う。</p> |
| 17 | <p>⑤ 他高専との人事交流については、学校内の教員配置を考慮しながら継続的に実施する。また、各技科大とのプロジェクト連携や内地研究員の派遣についても推進する。</p> | <p>⑤ 他高専との人事交流については、学校内の教員配置を考慮しながら継続的に実施し、また、技科大とのプロジェクト連携も行った。</p> |
| 18 | <p>⑥ 全ての教員が参加できるファカルティ・ディベロップメント等の教員の能力向上を目的とした学内研修を実施する。また、教員の能力向上を目的とした外部研修会等に積極的に教員を派遣する。</p> | <p>⑥ 両キャンパスの全教員を対象とした両C合同教員研修会を8月30日に実施し、生成系AIについての講演及びグループに分かれての意見交換、全体への共有を行った。また、全教員が参加できる研修会として、「アントレプレナーシップ教育に関する導入研修会」、「アントレプレナーシップ教育に関する授業設計研修会」、「情報教育に関する情報共有のための研修会」、「学生向け模範講義を含むアントレプレナーシップ教育研修会」の4件の研修会を開催した。</p> <p>外部のFD研修については、各教員の教育研究費を活用した研修参加を奨励すると共に、FD推進室予算から、「質的統合法(KJ法)基礎講座」への参加支援を行った。</p> |

| 番号 | 熊本高専 令和5年度計画 | 令和5年度計画実績(※年度末の状況) |
|----|---|--|
| 19 | ⑦ 「教育」、「研究」、「学生指導」及び「地域貢献」の各分野で顕著な功績が認められた教員を、教員会等で表彰する。 | ⑦ 「教育」、「研究」、「学生指導」及び「地域貢献」の各分野で顕著な功績が認められた教員を決定し、11月の教員会での表彰を行った。 |
| 20 | (4)教育の質の向上及び改善 ① ・令和4年度に3ポリシーの全体的な見直しを行ない、教学マネジメント体制の構築に向けアセスメント・ポリシーを制定した。今年度はこれらに基づき、学生の学修成果の評価(アセスメント)を実施する。 ・リベラルアーツ科目のさらなる充実を図るとともに、COOP教育、PBL教育などアクティブラーニングに関する成果検証を実施する。令和元年度カリキュラムの実質化に向けた計画を実施する。 ・教育の質向上に向けて、引き続き、第5ブロック各高専と連携し、FDの実施および体制等に関する検討を行う。 ・学生の主体的な学びの促進等を図るため、国立高等専門学校間の教材の共有や授業科目の履修等を推進する。 | (4)教育の質の向上及び改善 ① ・令和4年度に制定したアセスメント・ポリシーに基づきアセスメントプランに沿った実施準備およびアセスメント作業に着手した。 ・リベラルアーツ科目ではリベラルアーツ実践I・II・IIIが関連を持って学生の能力の伸長につながるよう取り組みや学習内容を次学年に引き継ぎ、逆に低学年には上級生で使う知識や思考方法の概念に触れさせ、PBL教育での学習が学年進行と共に効果的になるよう改善を行った。合わせて多様なアクティブラーニングテーマを提供できるよう、地域協議会や教育機関との接続も行ない、行政機関からの出前授業や新たな協力先からも手を挙げてもらうことができた。合わせて、リベラルアーツ関連の実践科目の発表会を他学年合同にて実施し、学生の意欲を高め、教育効果のさらなる向上を目的とした活動も追加した。COOP教育、PBL教育などアクティブラーニングに関する成果検証は、PROGデータの集積を継続しつつ、年度末に分野横断的能力アセスメントを対象学生に対して行い、その結果の集計と、実施後の結果や成果物を教員、学生にフィードバックする(3月下旬予定)。令和元年度カリキュラムの実質化に向けた計画は、令和4年度に完成年度を迎え、完成年度から2回目の本年度は内容も修正改善されて実質化は達成された。 ・機構本部からFDマップが示されたが、内容が多岐にわたるためブロック内での情報交換を進めながら、学校としての対応を検討していく。また、教育改善に関する事項については、FD推進室でその必要性も踏まえ検討する。 ・高専間提供科目の進め方について検討した。また、高専間提供科目について履修を推進し8名が履修した(聴講含む)。 |
| 21 | ② ・外部評価として位置付ける令和5年度運営諮問会議に対応する。 ・平成28年度に受審した機関別認証評価の指摘事項の改善を継続するとともに、令和5年度に受審予定の機関別認証評価に向けて実施したアンケートの結果の分析から必要な改善を行う。 ・機関別認証評価準備ワーキンググループと連携し、令和5年度受審予定の機関別認証評価に対応する。 ・日本技術者教育認定機構(JABEE)による技術者教育プログラムの継続認定のために行われるWebによる実地審査に向けて対応を進める。 | ② ・令和5年度運営諮問会議は、11月29日(水)に開催した。 ・平成28年度に受審した機関別認証評価における指摘事項については、改善事項を改めて確認し、実行している。また、令和3年度から令和4年度にかけて機関別認証評価に向けて実施したアンケート結果については、企画運営会議に提言付きで報告し、関連部署において改善に向けて対応している。 ・令和5年度に受審した機関別認証評価については、機関別認証評価準備ワーキンググループと連携して自己点検評価等を実施し、審査機関である大学改革支援・学位授与機構による面接審査等を受審し、一部要改善事項があるものの、全ての基準を満たしている旨の評価を受ける予定である。 ・JABEEについては、10月中旬までのWebによる面接審査に対応し、10月25日に審査結果報告を受けた。3月1日に認定を可とする旨の通知を受けた。 |
| 22 | ③ ・令和4年度に引き続き、地域企業、行政機関、外部エンジニア等と連携したPBLを推進・強化し、カリキュラムの実質化を進める。 ※ 令和4年度スタートした「リベラルアーツ実践Ⅲ」(4年生必修)では、全てのグループが外部機関との連携によるPBLに取り組めるように、各所との連携をはかった。「リベラルアーツ実践Ⅱ」(3年生必修)までは、一部のグループが外部との連携によるPBLを経験している。 ・地域の自治体等と連携し、小中学生等を対象とした情報プログラミング教育を含むSTEAM教育の支援を実施する。 | ③ ・「リベラルアーツ実践Ⅱ」(3年生必修)および「リベラルアーツ実践Ⅲ」(4年生必修)、課題研究(4年生必修)でのテーマ設定において、地域協議会や県内企業と連携したテーマを提示し、複数のチーム(八代キャンパス6チーム)が学外と連携したテーマでのPBLに取り組んだ。行政機関、教育機関との連携活動を行う機会が増え、助言を受ける機会も増やすことができています。また、「実践プロジェクト」(特別選択科目)において、八代支援学校等、地域の教育機関とのコラボテーマによるPBLに10名の学生が取り組んでいる。 ・八代圏域小学生プログラミングコンテスト「やっプロ2023」に関連し、8/20(日)にプログラミング言語Scratch講座の実施、10月にコンテスト応募作品の審査を行った。合志市近隣及び熊本県郡部地域(令和5年度は球磨郡)の小中学生を対象としたプログラミング教室を開催した。また、連携理科授業は例年に引き続き令和5年度は計13校の小中学校にて実施した。情報プログラミング教育を含むSTEAM教育は、昨年度に引き続きMeshを用いてプログラミングを含めた形での連携授業(STEAM連携授業)を2月に小学校3校で計120名の小学生に対して実施し、STEAM教育を支援した。なお実施に際しては、本校学生17名が実践プロジェクトとして参画、教材開発に取り組むとともに、学生が中心となって連携授業を行った。8月、2月に湯前町にて人吉球磨地域の小中学生を対象とするプログラミング講座を開催した。(学生計29名、未就学児から中学生計87名が参加)本取組では、2日間の講座を繰り返す中で、本校学生は授業設計、実践、振り返りを行い、ワークショップデザイン手法の習得を図った。東京エレクトロン九州と済生会熊本病院とのコラボ企画として、小中学生の科学技術および医療に対する興味喚起を目的とした装置を作製し、青少年のための科学の祭典熊本大会2023(8/19-20、総来場者数7,818人)に出展した。 |
| 23 | ③-2 ・新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、キャリア教育推進室及び地域協働プロジェクトセンターと連携し、メガ・ミーティング、低学年向けキャリア教育等を検討、実施する。 ・インターンシップを含めた社会実装教育に関する実践例を点検、整理し、学内外での共有に向けた検討を行う。 | ③-2 ・メガ・ミーティングの後継として、「熊本高専研究教育地域連携フェア」を11/2に開催し、全教員によるポスター発表を実施し、参加企業と教員による活発な意見交換を行った。(参加者126名、学外者38名含む) ・ファーストベンギンズプロジェクトとして、アントレプレナーシップ講演、及び、スタートアップ講演を実施した。(22件) ・インターンシップや、新・閃きイノベーション等の社会実装教育に関する実践例を、「熊本高専研究教育地域連携フェア」で発表した。来年度新たに連携を行う事例が出ており、成果があった。 |
| 24 | ③-3 外部機関との協定およびK-SECとの連携により、サイバーセキュリティを含む情報教育について積極的に学生、教職員への情報提供や研修等への参加を促す。また、優れた教材や教育等が全国に展開された際に、その導入を前向きに検討する。 高専機構一括調達による情報システムおよび独自調達による情報システムの保守運用に引き続き対応し、校内システムの利用環境の改善を目指す。 | ③-3 ・九州管区警察署のセキュリティ出前授業を4MI学生およびHI4学生に向け実施した(7/14、11/1)。 ・K-SEC「第1回サイバーセキュリティ演習」(8/30-8/31)に熊本C学生1名が参加した。 ・K-SEC「KOSENセキュリティコンテスト2023」(11/18)に八代C学生1名が参加した。 ・K-SEC「セキュリティスプリングスクール2023」(3/4-5)に熊本C学生1名が参加した。 ・K-SEC非情報系実践ビデオに追加された教材を八代Cで公開した。 ・ICT演習室(八代C)の機器更新、レイアウト変更(6月)、音響システムの更新を行った(7月)。 ・STEAM I/2(八代C)のレイアウト変更(6月)、プロジェクトの設置を行った(9月)。 ・八代C専門科目棟II(生物棟)の校舎改修後の基幹ネットワークの復旧を行った(9月)。 ・機構主催「IT人材育成研修会(ネットワークセキュリティ対策CYDERAコース相当)」(1/22、2/16)に教員2名が参加した。 ・Wiresharkによる無線LANパケット解析セミナー(3月)に教員1名が参加した。 ・教職員PC増設用マルウェア対策システムの更改。 ・無線AP増設およびeduroamエリア拡大。 |
| 25 | ④ ・eラーニング高等教育連携(eHELP)の教材やコンテンツなどを参考とし、災害や感染予防対応時に対応した自学自習が可能なコンテンツライブラリを検討する。 また、BYODの推進と併せ、Web Class等のLMSを活用した教育方法の推進、e-Portfolioの導入による教育方法の検討及び効果検証を行う。 ・高専間ならびに技術科学大学からの提供科目の活用を促進するとともに、学生が積極的に提供科目を受講できるよう情報の提供および制度の整備を行う。 | ④ ・災害や感染予防対応時に対応した自学自習が可能となるよう、授業の録画と視聴が可能なシステムを構築した。今年度は、両キャンパスで36教室に設置し、全授業が自動録画可能となった。 ・BYODの推進と併せ、Web Classを活用した教育方法の推進し、e-Portfolioを3学科・全学年で導入した。 ・高専間ならびに技術科学大学からのお提供科目を受講できるように制度の整備を行い、学生が積極的に受講できるように活用を促進した。 |

| 番号 | 熊本高専 令和5年度計画 | 令和5年度計画実績(※年度末の状況) |
|----|--|--|
| 26 | (5) 学生支援・生活支援等 ① ・学生のメンタルヘルスに関わる学生支援のための講演会、学生へのアンケート調査を行い、学生支援連絡協議会、学生支援室キャンパス部会、担任会、グループ会議における情報交換や、教職員対象の研修会を継続して行う。 ・特に学習支援が必要な学生のための特別支援プログラムの継続と、当該学生の修学支援や就労支援の方策検討等を学生支援連絡協議会および外部専門家と協力して行っていく。 ・青年期である学生の心のケアを継続して行うとともに、継続して自殺防止に向けての取り組み強化を図る。 | (5) 学生支援・生活支援等 ① ・学生へのアンケート調査を行い(6月・10月実施、熊本C)、学生支援連絡協議会、学生支援室キャンパス部会、担任会、グループ会議における情報交換や、教職員対象の研修会(10月、熊本C)を継続して行った。 ・学生のメンタルヘルス、自殺予防に関わる学生支援のための講演会を実施した(12月、熊本C)。 ・学生の心のケアの一環として、希望者に対し陶芸教室および石鹸彫刻教室を実施し、ストレス緩和の機会の提供に努めた(2月、熊本C)。 ・ハセCでは、4月にメンタルヘルス講習会、5月にΣ検査を1年生に行った。長期の夏季休業明けに、自殺予防対策の一環として、こころと身体の健康調査を全学生に行った。その後、気になる学生との面談を行った。月に1度の割合で学生支援室会議を開催し、情報共有を行った。 ・特に学習支援が必要な学生のための特別支援プログラムを実施し、当該学生の修学支援や就労支援の方策検討等については、今後も引き続き学生支援連絡協議会および外部専門家と協力して行う。(両C) |
| 27 | ② teams、メール、掲示板等を利用し、学生に各種奨学金制度に係わる情報を発信し、できるだけ多くの学生がそうした奨学金制度を利用することを推進する。 | ② ・学生課・学務課より、全学生向けteamsや本校公式HPにて、日本学生支援機構奨学金(3/29、30掲載)、家計急変採用奨学金(7/12、13掲載)、後期授業料免除申請(8/30掲載)等の各種奨学金や支援制度の周知を行い、経済的に困窮している多くの学生が支援を受けている。 |
| 28 | ③ ・(熊本) 本科1~4年生及び専攻科生を対象としたキャリアセミナー、各学年ごとのキャリア講演会、就職実績のある企業を招いての業界セミナーを実施する。卒業生に対してキャリアイベントに関するアンケートを実施し、その有用性についての情報収集を行う。本科4年生、専攻科1年生を対象としたキャリア相談を実施して学生自身のキャリアについて深く考える支援を行う。 ・(八代) 特別活動の時間を活用し、低学年からのキャリア開発支援のプログラムを実施予定。4年対象の「進路セミナー」で進学・就職に関するキャリア開発支援を実施予定。本科2~4年、専攻科1年を対象に「キャリア研修会」を開催予定。 ・(共通) 就職・進学・インターンシップ情報については、学内オンラインサービスに加え、外部のサービスとも連携して情報提供を実施する。 ・(共通) 本校コーディネータを始め関係教員と連携し、迅速な情報提供と企業案内の体制を整えており、OB・OGからの相談に対応する。 | ③ ・(熊本) 本科1~4年生および専攻科生を対象としたキャリアセミナー実施。(12/19) 就職実績のある企業を招いての業界セミナーとして、JEITA/SEAJ 半導体キャリア講演会(3年生R6/2/6)、半導体業界セミナー(1~4年生R6/2/17)。 ・卒業生に対するキャリアイベントに関するアンケート(3月8日実施)。 ・本科4年、専攻科1年を対象としたキャリア相談計画(中)(R6/3月~6月)。 ・(八代) 低学年からのキャリア開発支援として「リベラルアーツ入門」の時間を活用し、本科1年に対してPROGを実施(8/3)、その後業者による解説会を開催した(10/6)。本科4年必修科目「進路セミナー」は共通プログラムおよび学科別プログラムを合わせて年間30時間実施した。「キャリア研修会」は本科2~4年、および専攻科1年、その他学年希望者を対象に実施した(12/9)。 ・(共通) 就職・進学・インターンシップ情報については「高専キャリアサポートシステム」に加え、外部のサービスとも連携して情報提供を随時実施している。 ・(共通) 本校コーディネータを始め関係教員と連携し、迅速な情報提供と企業案内の体制を整えており、OB・OGからの相談に対応する。令和5年度相談件数(八代_1件)。 |
| 29 | 1.2 社会連携に関する事項 ① 熊本高専の地元企業や地方自治体等の地域連携を活性化するために、地域共生社会に向けたHPや「国立高専研究情報ポータル」、ReserchMap等の更新頻度の向上と新規投稿を推進する。また、高専スタートアップ事業や未来技術者人財育成事業GEAR5.0/COMPASS5.0の社会実装の教育・研究をとおして、教職員、学生の社会実装の研究実践報告や共同研究・受託研究の成果をメガミーティングや「新・閃きイノベーション」などのイベントをとおして情報発信を活性化させる。 | 1.2 社会連携に関する事項 ① GEAR5.0【KOSEN-AT】「持続可能な地域医療・福祉を支えるAT-HUB構想とAT技術者育成による共生社会の実現」では、これまでの実績をHPで公開するとともにATのパンフレットを作成し、関連機関に配布している。 COMPASS5.0【半導体分野】(K-Semicon)でも、これまでの実績をHPで公開し地方紙に記事として掲載されている。 JABEEや科研費採択、機関別認証評価受審を機に、ReserchMapの更新を教員全体に指示し、改善を行っている。 高専機構産学連携活動サイトや機構本部のKRAからの外部資金情報を共有して、外部資金獲得を奨励している。 学生や教員の対外的な活動や研究、イベントについてWebプレスリリースを利用して、情報発信を行うとともに学校HPに掲載している。 4/21に「新・閃きイノベーション発表会」を実施した。 1/12にザ・ニューホテル熊本において、「熊本高専研究教育地域連携フェア」を開催し、全教員の研究の情報発信を行った。法人会員・特別会員及び教員を含む126名の参加があった。 |
| 30 | ② 地域協働プロジェクトセンター、KRAと連携を深め、両キャンパスの研究プロジェクト、研究ネットワークによる教員間の研究活動を活性化し、科研費採択率UPに向けたピアレビューなど外部資金向上の取り組みを推進する。また、高専スタートアップ事業と連携して産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究の受け入れなどを促進させる。 | ② 熊本高専研究プロジェクトでは、研究活動等の活性化や進展を図っており、学外公開可能なプロジェクトについては、本校公式Webでも進捗等を報告している。 科研費獲得に向けた動画コンテンツ、講習会の視聴を促し、第5ブロック研究推進ボードの科研費獲得オンライントレーニングにも参加している。令和4年度の科研費(代表)採択は、27,950千円に対して令和5年度は、32,450千円に増額となり、共同研究などを含めた外部資金全体で、令和4年度の93,006千円に対して、135,554千円と大幅に増額となり、十分な成果をあげている。 熊本高専ファーストベンギンズプロジェクトに取り組んでおり、本校のステークホルダーと連携しながら外部有識者の講演などをとおして、リベラルアーツ教育・アントレプレナーシップ教育・STEAM教育を推進している。 1/12にザ・ニューホテル熊本において、「熊本高専研究教育地域連携フェア」を開催し、法人会員・特別会員及び教員を含む126名の参加があり、共同研究・受託研究に向けた情報交換を実施した。 |
| 31 | ③-1 地元新聞社の支局等との連携をこれまで以上に強め、学校イベント情報などを積極的に提供して取材協力を推進する。 また、新聞・テレビ・ラジオ等に掲載、放送された記事や映像を著作権者の了承のもと、必要であれば費用を支払って公式Web等へ転載していく。 | ③-1 地元新聞社の支局等との連携をさらに強め、学校イベント情報などを積極的に提供して取材協力を推進している。また、新聞・テレビ・ラジオ等に掲載、放送された記事や映像を著作権者の了承のもと、必要であれば費用を支払って公式Web等へ転載する取り組みを継続する。 現時点で、新聞掲載が235件、テレビ取材も24件あっている。 |
| 32 | ③-2 公式Webサイト及び新聞やテレビ等のメディアを活用して、地域への更なる効果的な広報活動を展開するとともに、新聞やテレビ等に掲載、放映された内容を機構本部へ遅滞なく報告する。 | ③-2 公式Webサイト及び新聞やテレビ等のメディアを活用して、地域への効果的な広報活動を展開するとともに、新聞やテレビ等に掲載、放映された内容を機構本部へ遅滞なく報告している。 学生や教員の対外的な活動や研究、イベントについてWebプレスリリースを利用して、情報発信を行うとともに学校HPに掲載している。 |
| 33 | 1.3 国際交流等に関する事項 ①-1 タイ高専、タイプレミアムコース支援に加え、マレーシア技術者研修等を通じて、相手国と連携・協議しつつ今後の交流についての検討を継続していく。 | 1.3 国際交流等に関する事項 ①-1 ・タイプレミアムコースの試験問題作成において、作成内容の確認、修正などの支援、監修を行った。 ・昨年度に続きマレーシア技術訓練校の教員(ADTEC Melaka教員6名)を受け入れ、両キャンパスにおいて研修を実施し、参加者より高評価を得た。 |
| 34 | ①-2 該当なし | ①-2 該当なし |

| 番号 | 熊本高専 令和5年度計画 | 令和5年度計画実績(※年度末の状況) |
|------------|--|---|
| 35 | ①-3 ・タイ高専については、支援校として、また教職員本邦研修取りまとめ校として昨年度本邦研修受け入れの経験等をもとに、機構本部、今年度実施校に助言等支援する。 ・タイテクニカルカレッジにおけるプレミアムコースについては、昨年度までに引き続き、協力校として引き続き支援を継続する。 | ①-3 ・タイ高専については、支援校として、また教職員本邦研修取りまとめ校として昨年度本邦研修受け入れの経験等をもとに、機構本部、今年度実施校に助言等支援した。 ・タイテクニカルカレッジにおけるプレミアムコースについては、昨年度までに引き続き、協力校として引き続き支援を継続中である。 |
| 36 | ①-4 該当なし | ①-4 該当なし |
| 37 | ①-5 該当なし | ①-5 該当なし |
| 38 | ② 支援しているKOSEN(型)教育機関における研修その他に参画する機会を、これまで同様継続的に持ち、教員、学生の国際交流の場として活用する。 | ② タイ高専からの3年次編入生の受入に協力しており、次年度の受入についても準備を進めている。(令和5年度1名受け入れ中。令和6年度1名受け入れを予定。) |
| 39 (8) | ③-1 ・海外渡航の安全状況については引き続き注視しつつ、安全に海外留学や海外インターンシップができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、企業とアカデミックの両面からのインターンシップの準備を進めていく。[再掲] ・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。[再掲] | ③-1 ・海外協定校と連絡を取り合い、4年次の海外研修でのシンガポールやベトナム、香港等の協定校の相互訪問交流を開始しており、留学を含むディスカッションを進めた。[再掲] ・シンガポール(学科研修:2学科約70名、英語研修20名)、タイ(PCSHS10名、SUT2名)等、海外安全状況を確認し、約100名の海外派遣を実施した。[再掲] ・短期プロジェクト留学生(令和5年度は15名受け入れ)や受け入れ学生交流(8月タイPCSHS:6名、香港VTC:19名、9月シンガポールTemasek Polytechnic:30名、3月香港VTC:20名、計75名受け入れ)を実施し、それぞれの活動においては、本校の学生が同数以上参加して国際体験を持った。交流会運営に学生リーダーを置き国際マインドを育成している。[再掲] ・熊本キャンパスでは、海外研修を2学科が再開実施し、もう1学科も次年度再開に向けて教員による訪問を実施し準備を整えた。八代キャンパスでも、次年度に向けて準備を開始している。[再掲] |
| 40 (9) | ③-2 学生の国際コミュニケーション力や海外へ飛び出すマインド育成のため、海外協定校との協働ワークショップなどの運営に学生も参画させていく。また、コロナ禍により中断していた海外研修についても、海外協定校と連絡を取り合い順次再開または再開準備を進めていく。[再掲] | ③-2 ・短期プロジェクト留学生(令和5年度は15名受け入れ)や受け入れ学生交流(8月タイPCSHS:6名、香港VTC:19名、9月シンガポールTemasek Polytechnic:30名、3月香港VTC:20名、計75名受け入れ)を実施し、それぞれの活動においては、本校の学生が同数以上参加して国際体験を持った。交流会運営に学生リーダーを置き国際マインドを育成している。[再掲] ・熊本キャンパスでは、海外研修を2学科が再開実施し、もう1学科も次年度再開に向けて教員による訪問を実施し準備を整えた。八代キャンパスでも、次年度に向けて準備を開始している。[再掲] |
| 41 (12) | ③-3 本校の留学経験者の報告会及び留学説明会を開催し、留学の魅力や学生に伝える。その他、留学促進講演会として、外部講師及び卒業生による講演会を両キャンパスで実施する。留学に関する奨学金情報は、随時学生に提供していく。[再掲] | ③-3 ・留学経験者の報告会は随時行っており、次年度留学希望者向けの説明会を12月に実施した。[再掲] ・外部講師および卒業生による後援会を実施した(12月および1月)。[再掲] ・留学に関する奨学金情報は随時Teamsを通じて随時学生に提供し、外部資金による渡航やトビテ!留学JAPAN等への応募も支援した。[再掲] |
| 42 | ④-1 ・本校及び高専について情報発信の質両面での強化を図るために、HPの英語コンテンツのさらなる充実を進める。 ・協定校との定期的な連絡、交流会等の活動を通じて本校や高専についての魅力について伝えていく。 | ④-1 ・HPについては情報更新を適宜行った。英語版リーフレットの更新は見合わせた。新設の国際棟利用情報について英語版の利用情報を作成して協定校へ共有した。 ・協定校とは随時連絡を取り合っているが、学生を中心とする交流活動のほか、協定校への表敬訪問や協定校の代表者による表敬訪問受け入れも行い本校や高専についての魅力を伝えている。 |
| 43 | ④-2 ・令和5年度3年次編入のタイ高専からの留学生に対して、学習環境・生活環境について関係各部署で連携して支援を行う。 ・低学年からの留学生受け入れについては、支援体制、学習環境・生活環境の整備を継続し検討を進める。 | ④-2 ・令和5年度3年次編入のタイ高専からの留学生に対して、学習環境・生活環境について関係各部署で連携して支援を実施した。 |
| 44 | ⑤ 海外留学及び、海外渡航に対しては、海外安全状況を随時確認し、渡航にあたっては保険加入、たびレジ登録、定期的な安全確認を義務付けることで、渡航者の安全状況確認に努める。 外国人留学生については、学業面だけでなく日常生活面においても関係教職員と連携しながら支援していく。 | ⑤ 実施した海外留学及び、海外渡航に対しては、海外安全状況を随時確認し、渡航にあたっては保険加入、たびレジ登録、定期的な安全確認を義務付けることで、渡航者の安全状況確認に努めた。 外国人留学生については、学業面だけでなく日常生活面においても関係教職員と連携しながら支援した。 |
| 45 | 2.業務運営の効率化に関する事項 2.1 一般管理費等の効率化 ・機構本部令和5年度計画及び機構本部予算編成方針を受け、年度当初に本校の予算編成方針を策定し、一般管理費、その他の業務の効率化を図る。 また、一般管理費の削減を図るため、学内委員会等と連携して光熱水費、通信費等の節減の取り組みを実施する。 ・通常業務における業務の見直しを図り、事務効率化を推進する。 | 2.業務運営の効率化に関する事項 2.1 一般管理費等の効率化 ・年度当初予算については、昨年の取扱いと同様、各委員会からの当初予算要求額に原則15%削減を講じる本校の予算編成方針を4月に策定した。ポストコロナで教育研究活動が従前に戻りつつある中、各部署から総額を大きく上回る予算要求が行われたため、一部の予算要求事項についてヒアリングを行い、要求額の精査を経た上で配分案を作成し、7月13日の企画運営会議の承認を経て同月に予算配分を行った。 配分後は、電気料変動の動向に注視しつつ、10月末及び2月当初に予算残額返還等照会を各予算管理者に行うなど、適正な予算管理に努め、キャンパス毎に効率的・効果的な執行を図った。 ・本年6月末に竣工した専門科目棟-2、3月5日竣工のハ龍寮A棟ならびに3月15日竣工の明和寮北棟において、断熱材や複層ガラス、LED照明の使用、空調設備の更新等を行い、光熱費節減の取り組みを実施した。 ・高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業に伴う調達案件の増加に伴い、予算執行額一覧、各契約案件の進捗状況を通じて随時各キャンパス間の連携・調整を図り、情報共有及び業務の平準化を行った。 |
| 46 | 2.2 給与水準の適正化 高専の方針に則り、適正に対応する。 | 2.2 給与水準の適正化 高専機構の方針に則り、適正に対応している。 |

| 番号 | 熊本高専 令和5年度計画 | 令和5年度計画実績(※年度末の状況) |
|----|---|---|
| 47 | <p>2.3 契約の適正化 契約にあたっては、他高専で実施された監事監査の指摘事項等を踏まえ、随意契約の適正化を推進するとともに、一般競争契約への見直しを継続する。 さらに、引き続き機構通知等に基づき学内(内部)監査等を実施する。 また、両キャンパスにおける調達等の合理化、効率化についても引き続き検討し、可能なものから着実に実施する。</p> | <p>2.3 契約の適正化 随意契約の適正性の確保として、競争性のない随意契約については、全て機構本部への確認を経て行った。 高専相互会計内部監査について、12月5日(明石→熊本)、12月20日(熊本→旭川)を実施し、本校では公的研究費にかかる内部監査を1月17日、18日に実施し、予算管理状況、人件費、旅費、物件費にかかる契約の適正性等を確認した。 また、両キャンパスにおける調達の合理化については、高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業において、両キャンパス共通の調達案件を可能な限り纏めて実施した。</p> |
| 48 | <p>3. 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画 3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 校長(副校長)のリーダーシップのもと、高専4.0イニシアティブ事業で掲げた「特色のある高専」の実現を目指した取り組みを継続させ充実を図るため、本校の予算編成方針をあらかじめ定め、全教職員に周知する等、透明性・公平性を確保した予算編成に努める。 また、各委員会等からの「予算要求書」に基づき、アクティビティに応じた戦略的な予算配分を行い、各業務ごとに予算と実績を管理する。 なお、教員配分のうち「研究基盤費」については、「教員評価(職務申告表)」の「研究実績」に応じて配分する方法を継続する。</p> | <p>3. 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画 3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 本校の予算編成方針は、例年4月の企画運営会議において決定し、各委員会等からの「予算要求書」に基づき、戦略的な予算配分を6月に行い、各業務ごとに予算と実績を適正に管理している。 しかし、昨今のウクライナ情勢等の影響による電気料等の高騰のため、当初予算要求額に原則15%削減等を講じ、「研究基盤費」についても、「教員評価(職務申告表)」の「研究実績」に応じて原則15%削減等を講じた。 さらに必要に応じて個別ヒアリングを実施の上、戦略的な予算配分を7月に行った。予算配分後は各業務ごとの適正な執行管理のため、10月末及び2月当初に予算残額返還等照会を各予算管理者に行い、キャンパス毎に効率的・効果的な予算執行を図った。 当初予算配分後は電気料変動の動向を注視しつつ、各業務ごとに予算と実績を適正に管理し、インセンティブとなるよう、アクティビティに応じて、校長裁量経費を配分する措置を検討していたが、令和5年度において、高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業を着実に推進するため、校長、副校長、事務部で協議し、当該事業に関連する施設環境整備等を中心に財源を充当し、教育環境の整備・充実を図った。</p> |
| 49 | <p>3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 社会連携活動の推進として、本校が中核拠点校である高専発!「Society5.0型未来技術人財」育成事業GEAR5.0介護・医工分野の活動やCOMPASS5.0半導体分野人材育成事業、高専スタートアップ事業(ファーストベンギンズプロジェクト)等を行うことで他機関と連携する機会を増やし、外部資金獲得の増加を図る。 また、卒業生が就職した企業、同窓会等へ熊本高専地域連携振興会の案内を行うことで、会員の獲得増及び寄附金の獲得を図る。</p> | <p>3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 (1) 高専発!「Society5.0型未来技術人財」育成事業GEAR5.0介護・医工分野の活動状況 令和5年7月に株式会社e-Craftと共同研究契約を締結し、共同研究費として約300万円の収入を得た。 (2) 熊本高専地域連携振興会の会員の獲得増及び寄附金の獲得状況 熊本高専地域連携振興会の案内等により、以下のとおり、新規会員や寄附金の獲得ができています。 法人会員 112法人(うち、R5年度新規入会: 10法人) 寄附金の獲得状況 今年度: 23件 13,661,583円(年間合計額) 前年度: 27件 11,839,665円(年間合計額)</p> |